

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2271100923		
法人名	メディカル・ケア・サービス株式会社		
事業所名	愛の家グループホーム沼津我入道		
所在地	静岡県沼津市我入道江川5-1		
自己評価作成日	平成22年 1月15日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 環境福祉センター
所在地	静岡県清水区万世町2-7-4
訪問調査日	2010/2/25

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

健康維持の為、毎日の体操や散歩を実施。 畑仕事や書き物など、個別に計画した生活リハビリを行っている。 月に1度は外食もしくは好きな食事が出来る機会を作っている。 ドライブや買い物など、外へ出掛ける機会を多く持つように心掛けている。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

施設は、閑静な住宅街に立地している。敷地内には広い花壇と農園があり利用者の自然とのふれあいを大切にしている。施設内外の装いは、明るく入居者及び訪れる人に親しみを感じさせている。また、全てバリアフリー化されており、車椅子でも利用できる。居室にはエアコンや洗面台がついており利用者に優しく造られている。

Ⅴ. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	リーダー会議、ユニット会議の冒頭に全員で唱和し、理念を共有できるようにしている。	理念は誰でも見やすいように、フロアー内、トイレ、事務所に掲示してある。また、常に意識し、仕事ができるようにリーダー会議及びユニット会議で唱和している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	天気の良い日はホームの周りを散歩し、挨拶を交わしたり、会話を積極的に行っている。地域の行事に参加している。	自治会に加入し、清掃活動、敬老会、避難訓練等地域御璽に積極的に参加している。高校、看護学校の実習生を定期的にうけいれている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	2ヶ月に1回、ホームで運営推進会議を開催し、ホームの情報は発信しているが、活かすまでには至ってない。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議に地域の方や、御家族様、御入居者様を交えて、日頃のホームでの活動の様子や、意見がもらえる場としてサービス向上に努めている。	構成員は、家族、自治会長、民生委員等20名からなっており、意見、要望が多く出されるように配慮し、運営に反映させるようにしている。議事録は事務所入口で自由に見られるようにしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	今後の課題として、市町村との関係性を築いていきたい。	市には施設の実情やケアサービスの取組み等について相談している。また、市及び社会福祉協議会の研修にも参加し、関係づくりに勤めている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないように、スタッフ間で話し合いの場を設けて、拘束しないケアを目指している。	入居者の外出パターンを観察し、くせや傾向を把握している。玄関に自動ベルを取りつけ一人外出を察知した場合、職員が付き添って外出するなど、安全面に配慮し、自由な暮らしを支援している。		
7		○虐待の防止の徹底				

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
		管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待の防止は努めて行っているが、高齢者虐待防止の学習については、計画等含め、検討が必要だと思う。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護や関する制度についての理解は低く、勉強会開催の計画が必要だと思う。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、十分な説明を家族に行い、御利用者や家族等の不安や疑問も聞き出している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	御家族様アンケートを実施し、結果を会議を通じて情報を共有し合い、ケアの質の向上を目指している。	年1回家族のアンケート調査を行い意見・要望を聞いて内容を検討し、改善の経過や結果を文章で回答している。会議録は、全員に回覧し、内容を共有し合っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員も御家族様同様にアンケートを行い、意見を聞く場を設けている。	職員アンケート調査の実施及び月1回の会議で意見やアイデアを聞き、運営に反映させている。会議録は全員に回覧し内容を共有している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員自身の評価を1年に1回行い、職員個々の努力や課題を管理者が把握し、向上心を持てる様にしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ユニット間での交換研修や、業務チェックリストを作成し、現在の本人の課題点を把握し、管理者と情報共有している。外部研修には積極的に参加していきたい。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域にある他のグループホームと連絡を取り合い、見学をしたり、グループホーム連絡会議に参加し、情報の共有化、サービスの質の向上を目指している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人と会話を通し、情報を得たり、御家族様に、アセスメント用紙を渡し、記入できる情報については、記入していただいている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	いろいろな機会を通じて御家族様が困っていることを把握し、話をよく聞き、関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	他事業者と連携を取り合い、必要としている支援を提供できるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来ることを見極め、積極的に掃除や洗濯を一緒に行うことで、関係を築くようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	今後も、御家族様の絆を大切にしながら、関係性を深めるようにしていきたい。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	御家族様に協力を仰ぎながら、御本人様が馴染みの人や場所との関係が途切れないように努めている。	知人・友人の付き合いが続けられるよう、家族の了解を得て合わせている。また、昔から利用している床屋や命日の墓参り等の生活習慣を尊重している。掛かりつけ医の通院には、職員が付き添うなど支援を行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	スタッフ一人ひとりが御利用者の情報を把握し、孤立しないように、関わり合い、支え合えるような支援をしている。支障をきたした時には、ユニット会議の中で、担当者会議を通し、早期に問題解決に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	これまでの関係性を大切にし、御本人様や御家族様に相談や支援するように努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のコミュニケーションの中から御本人様の意向を聞きだすように努力している。困難な場合でも、御本人様本位になるようにしている。	買物や外食、図書の借用は職員が案内をしている。俳句、ハーモニカ、編物など趣味、娯楽は利用者の希望にそって自由に行わせている。意思疎通の困難な人には、表情や反応をみながら対応している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に、御家族様から情報収集を行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの現状の把握を、申し送りノートやケア日報、ケース記録を活用し、全員で共有できるように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ユニット会議の中の担当者会議や、モニタリングを通じて、アイデアを出し合い、御本人に合った介護計画を作成するように努めている。今後の課題としては、御家族様の担当者会議への参加がある。	3ユニットの担当者10名によって月1回の会議を開催し、アセスメントを含め、意見交換やモニタリングを行い介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケア日報やケース記録、申し送りノートを活用し、情報の共有化をし、実践や介護計画の直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々ニーズに対応できるように、サービスの方法を工夫し、サービスが多機能化するよう取り組んでいる。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の住民の方を含めて、地域の行事にも積極的に参加するなどして、地域の中での生活が豊かになるよう、地域資源の活用方法を考えていきたい。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	往診のDrとの連携を密に取りながら、御入居者様の希望に沿った医療が受けられるようの支援している。	受診は2箇所の医院と提携している。本人及び家族から、かかりつけ医の受診申入れがあればそれに添って対応している。眼科は訪問診療に来てもらっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師に、何か問題が生じた時には、すぐに連絡できる体制を整えていて、早急に対応できるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時、医療機関との連携を密に行い、情報交換や相談を行っている。日頃より、病院関係者との関係作りを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	今後は、御家族様や医療機関と話し合いの場を設け、課題として検討していきたいと思う。	重度化に伴う意思確認はなされていない。今後、利用者が安心して納得した最期を迎えられるように、随時意思確認しながら取り組む必要がある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当や初期対応の訓練が定期的に行っていないので、実践していきたい。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域住民の方との協力体制を強固なものにしていきたい。	消防署の協力を得て避難訓練、避難経路の確認、消火器の使い方などの訓練を定期的に行っている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	今まで以上に誇りやプライバシーを損ねないような言葉かけを行えるようにしたい。	トイレの誘導、入浴、食事などの支援が必要な場合も、本人の気持ちを尊重し、誇りやプライバシーを損ねないよう言葉かけや介護に留意している。各部屋の入口には暖簾を下げ、直接室内を見られないように配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃の会話の中から、希望の表出や自己決定をしやすい働きかけを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切にした支援をするように心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝の整容や身だしなみなど、御本人様に合わせた支援をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	御入居者様一人ひとりに合わせた食事を提供すると共に、出来る限り準備や後片付けをしてもらえるように支援している。	施設内の農園でとれた野菜等で調理ワークショップをおこなっている。入居者の希望にそった献立を取り入れている。また、食事前には必ず嚥下体操おこなって喜ばれている。食事の準備や後片付けも一緒に行うようにしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	チェック表を活用して、確認と把握を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	夕食後しか口腔ケアが行えていないので、今後は毎食後に口腔ケアが行えるように支援したい。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用したり、日中だけでも、トイレでの排泄を目指し、スタッフで情報を共有して支援を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	積極的に運動を取り入れたり、飲食物を工夫して、出来るだけ下剤の使用に頼らない支援を目指している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めしめず、個々にそった支援をしている	御本人様の希望した時に入浴していただきたい気持ちを持ちつつ、入浴の時間を少しでも楽しんでいただけるよう、バスクリンを入れるなどして支援をしている。	入浴は一人ひとり、隔日としている。仲のよい人同志は二人入浴も可能としている。入浴剤を入れるなどして楽しさに配慮している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	出来る限り夜間に安眠できるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の目的や副作用、用法や用量についての理解がすべて行えていないので、今後は周知徹底をしていきたい。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりに合わせた役割を考え、無理強いないで行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	レクリエーションや散歩、買い物など、外出の機会を持つようにしている。今後は、回数を増やしていけるように支援したい。	外出は、スーパーで買物、公園・海岸の散歩、外食等を主とし、車椅子で行えるように積極的に支援している。個人の場合は、家族に対応してもらっている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	すべての入居者の方が、おこづかい帳を使用して、事務所で管理している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	一部の入居者様の方は、御本人様から電話のしたい時に支援している。手紙に関しては、支援できていないので、御家族様と協力して支援できるようにしたい。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	スタッフ皆で話し合い、御入居者様が少しでも居心地がよくなるような共用空間を作れるように努力している。	廊下は広く明るい。壁には行事ごとに利用者の写真が飾られている。居室及び食堂等居心地のよさを引き出すために季節感のあるものや和風の物を取り入れ暮らしの場を整えている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	仲の良い御入居者様を隣同士にしたり、思い思いに過ごせるように、家具を配置転換するなどして、工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	御家族の方にも協力していただき、昔から使い慣れた物を持って来てもらうなどして、居心地よくなるよう工夫している。	居室は、エアコン、洗面台付きで、入居者が安らぎを得られるように自宅で使用した、日用品や家具の持込は自由にしており、家庭的な雰囲気を出している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの生活しやすい空間を目指し、移動しやすい環境の提供、過ごしやすい空間作りをしている。		